

## 全青色青年部通常代議員総会開催される



全青色青年部は 5 月 17 日、東京都千代田区のルポール麹町において、平成 17 年度通常代議員総会を開催し、本年度の基本方針等を決定した。

また、青年部員、青色申告会員の増強を図る TEN-UP ACTION 2005 を宣言し、青年部活動の一層の発展を誓った。

### 平成 17 年度事業活動基本方針

本年は、青色申告施行・青色申告会結成 55 周年の記念すべき年である。組織の発展のため、社会の変化に対応した青年部運営をすすめていきたい。

わが国の財政は危機的状況にあり、国民生活に大きな影響を与えている。当面は、増税一色の厳しい時代に入ったといえよう。他方、景気は踊り場に差し掛かっているといわれており、われわれ中小企業事業者にとって厳しい経済環境が依然として続いている。

次代を担うわれわれ青年部は、この日本の現状を直視し、今後の日本のあるべき姿について真剣に討議し、提言していかなければならない。厳しい時代を乗り切り、新しい時代を切り拓くために、われわれ青年は力強く歩み出さねばならない。青年部は自己研鑽の理念のもと、積極的に活動を推進する。

本年は、TEN - UP ACTION キャンペーンの五年目として、今までを超える成果を得るよう、部員増強運動に傾注する。また、税制改正運動、パソコン用会計ソフト「ブルーリターン A」の活用、消費税法改正及び青色申告特別控除 65 万円への対応を重点目標として、活動を展開する。

### チャレンジ！ TEN-UP ACTION 2005！

統一的な重要課題として次のテーマに取り組む。

#### ・活動と組織の充実強化

- (1) TEN-UP ACTION 2005 の推進、青年部活動の充実
- (2) 青年部未結成地区の解消

#### ・税制政策活動の推進

以下の重点項目を中心に、税制等改正運動に取り組む。

少子高齢化対策として、教育ローン減税の創設

事業主報酬の実現

事業承継税制の実現

消費税手続きの簡素化

公的医療・年金制度など社会保障制度の抜本改革

#### ・個人事業者の OA 化の推進と消費税法改正及び青色申告特別控除 65 万円への対応

- (1) パソコン用会計ソフト「ブルーリターン A」の普及推進への取り組み
- (2) 消費税法改正への対応
- (3) 青色申告特別控除 65 万円への対応

### 1. 全青色青年部の活動と役割

- (1) 部員増強運動に努め、県連と協調し、地区会青年部を支援する。
- (2) 税制等政策の研究に努め、本会の税制改正運動および社会保障改正運動を協力支援する。
- (3) 全青色青年部の円滑な運営について本会、各県連に理解を求める。
- (4) すべての県連に青年部設置を呼びかける。

### 2. 県連青年部およびブロック青年部の活動と役割

- (1) 県連青年部ならびにブロック青年部の研修会を開催し、県下ならびにブロック内の情報交換と交流の場を提供し、青年部運営の充実強化、部員増強に努める。
- (2) ブロック内および県内の青年部未結成地区および県に青年部の創設を働きかける。
- (3) パソコン用会計ソフト「ブルーリターン A」、消費税法の改正に伴う対応、青色申告特別控除 65 万円への対応等の研修を企画する。

### 3. 地区会青年部の活動と役割

- (1) 地区会青年部の研修会を開催し、部員相互の情

報交換・異業種交流の場を提供し、青年部活動に対する意識を高めるとともに部員増強を図る。

- (2) 青年部の立場から、本会の運営に積極的に参画し協力支援する。
- (3) パソコン用会計ソフト「ブルーリターンA」、消費税法の改正に伴う対応、青色申告特別控除 65 万円への対応等の研修を推進する。

#### TEN-UP ACTION 2005 宣言

長期の景気低迷、会員の高齢化による廃業の増加、新入会の減少により青色申告会員が減少していること、また、会員事業の後継者難、新規開業の減少、青年部員の高齢化と新規部員の不足により青年部員が減少している現状は、青色申告会ならびに青年部の組織維持に危機的な状況です。

青年部は平成17年度の全国統一キャンペーンとして、会員増強運動、青年部員増強に取り組みます。

##### 青年部員数の 10%UP

新規入会者を青年部員が中心となって勧誘します。

##### 青色申告会員数の 10%UP

青年部員を今まで以上に増やします。

##### 青年部設立数の 10%UP

青年部を増やします。

#### TEN-UP ACTION 2004 表彰式

総会議事終了後、TEN-UP ACTION 2004 表彰式が行われ、青年部員数純増 10%以上の目標を達成した 3 会が表彰された。

表彰会及び活動報告は、下記のとおり。

#### 【(社)江東西青色申告会】

##### <部員増強活動の目標>

活力ある青年部活動。異業種、異年齢の集団の特徴を生かしながら、自ら青年と思うものが集い、会があるいは会に必要とするものを模索し、積極的な活動を展開していく。今年度は特に異業種について、会員にとって必要性の高い業種を選び、情報の交換、提供を促し、会員への周知とその利用を図り、相互の交流を深めた。また一般会員参加の行事を行い、参加者の中から青年部への入部を促す。

##### <具体的な部員増強活動の内容>

異業種交流会(青年部員の葬儀屋さん 3 社を招く)・政治を語る会(青年部員である都議会議員を招き、政治を論じる意見交換)・バーベキュー大会・税務署とのソフトボール大会・桜吹雪の遊宴・一泊二日のバス旅行を実施し、参加者は前年度より大幅増で桜吹雪の遊宴などは前年度の 2 倍増の 48 名も参加。

パソコン教室は昨年を上回る 22 回、会計ソフト教室は 12 回実施。アクティブネット通信(青年部広報誌)の発行(月 1 回)

##### <上記活動内容において良かった点>

何よりも各行事の参加者が前年を上回ってくれたこと。広報活動の重要さ(月 1 回の発行は大変だが、新鮮な情報、行事の報告が参加者増につながる)

#### 【川崎西青色申告会】

##### <部員増強活動の目標>

何をするにも部員の数が必要。部員増強し、充実した青年部に。

##### <具体的な部員増強活動の内容>

地引網(8月)に 60 名参加、ボウリング大会(9月)に 30 名参加、青年部の集い(12月)に 10 名参加。

青年部行事を部員増強の場と考え、一般会員も参加できる形で開催し、その内の部員対象者に対し、役員・部員が積極的に入部勧奨を行った。また、これらの対象者に対して 12 月に青年部の集いを行い、青年部の雰囲気を知ってもらい、懇親の場とした。

##### <上記活動内容において良かった点>

各行事を土日に開催したことにより、参加者の幅が広がったこと。また、地引網は子供連れで参加する方が半数近くあり若い年代の方にアピールできたこと。さらに、入部対象者に対して、直接的な入部勧奨が行えたこと。

#### 【(社)大和青色申告会】

##### <部員増強活動の目標>

親会事業に積極的に参加・協力するためにも、部員増強を最重点項目とし、組織の拡充に努める。今年度中に部員 30 名を目標とする。

##### <具体的な部員増強活動の内容>

それぞれの地元の役員、部長、事務局職員で対象者宅を個別訪問し、入部勧奨を行った。その後、見込みのありそうな方は、積極的に接触していった。広報紙(青年部通信 10 月 1 日発行)を全会員に配布し、活動の紹介と部員募集を行った。

##### <上記活動内容において良かった点>

個別訪問して、いろいろな方と話した中で、それぞれの事情や考えが分かったこと。事業主(対象者以外)に対しても、青年部の PR ができたこと。親会の印象が良くなったこと。

## 青色申告制度施行・青色申告会結成 55 周年記念式典 開催される



青年部総会翌日の5月18日、全青色は東京都千代田区のホテルニューオータニで青色申告制度施行・青色申告会結成55周年記念式典を開催した。その様子を簡単にレポートする。詳細は全青色機関誌「青色申告」の7月号をご覧ください。

第一部の記念式典は国税庁長官、財務省・国税庁幹部、各界からご来賓をお招きし、593名が出席して厳粛な雰囲気の中、挙行された。

主催者代表挨拶、国税庁長官挨拶の後、国税庁長官感謝状贈呈式(感謝状贈呈者12名)、全国青色申告会総連合表彰式(受賞者:特別表彰状2,934名、表彰5,042名、感謝状6,625名)がとりおこなわれた。



最後に下田兼義青年部長が山前生代女性部長と宣言を行い、閉式となった。宣言文は以下のとおり。

### 宣 言

世界で最も民主的で優れた税制を持つ国になることができるとしたシャウプ勧告により、昭和25年青色申告制度が誕生しました。混乱した社会にあって、自発的に青色申告制度を選択した人々によって青色申

告会が結成され、本年55周年を迎えました。

ふりかえれば、青色申告会の活動は小規模事業者が自ら記帳、決算、申告を学び、経営に資するとともに自発的納税協力をはぐくんできたことにあります。また、青色申告者の声を反映した公平な税制、民主的な行政の確立に向けて努力してきました。

今日、500万人を越える人々が青色申告を行い、申告納税制度の中核をなすまでにいたったことは、先達の人々の情熱とその努力によるところであり、あらためて深甚なる敬意を表します。

今日、国、地方財政の危機的状況のもと、少子化・高齢化と人口の減少は国民的課題とされています。また、政治・経済のグローバル化の進展、市町村合併による地域の再編成、社会保障制度の再構築等、わが国は大きな変革期にあり、小規模事業者がおかれた経済環境はかつてなく厳しい状況の下にあります。

本会は、会員の声のもと、事業主の勤労性を認めた税制の実現をはじめ、公平、公正な税制の確立と社会保障制度の改善を求めてまいります。さらに、自発的納税協力を維持・発展させるためにITを積極的に活用した指導環境を確立し、当面する消費税の指導、複式簿記の普及に全力をあげて取り組んでまいります。

私たちは明日に向かって松明をかかげ、英知と努力をもって納税者による納税者のための青色申告運動を実践し、ひろく会員と社会に貢献してまいります。

以上、宣言します。

第二部では、大武国税庁長官が「社会経済状況と当面する税務行政について」という演題で、記念講演を行い、参加者は熱心に聞き取っていた。





記念式典終了後に記念祝賀会が開かれ、和やかな雰囲気の中、参加者はそれぞれ55周年を祝った。県連青年部長が各地から出席し、全国各県の銘酒を手に参加者と交流した。

翌19日は、作家の童門冬二先生を招き、「今、税を考える～江戸時代の財政改革に学ぶ～」というテーマで記念フォーラムが開催された。



「江戸時代の諸藩の財政上の取り組みを探しながら、税はどうあるべきかを考えていく」という考えから、まずNHKの番組『その時、歴史が動いた』風の映像が沖縄・宮古島の人頭税石や長州藩・長岡藩の改革を鮮やかに映し出し、その後、童門冬二先生とNHK宮本隆治アナウンサーとの応答で進められた。当日のリーフレットに掲載されたメッセージは次のとおり。

バブルの崩壊、失われた10年と言われて久しい。この間、長引く不況の中で多くの小規模事業者が廃業を強いられてきた。少子、高齢化社会への推移も、ひとつの要因であると思う。

今日、わが国の財政は、国、地方を合わせると、長期、短期の借金は1,000兆円を超えるものとなっている。

今から24年前、国民の熱狂的な支持を得た土光臨調の「増税なき財政再建」を標榜したあの運動のエネルギーは、今はない。今日の財政状況は、当時とくらべても、深刻で危機的状況にあると言っても過言ではないだろう。

それではあの時の改革は何だったのだろうか。昨今の増税論議の中で生かされているのだろうか。誰もが思うところではないか。

納税者一人一人にあらためて、今、税を考えてもらうことが大切である。

激動の時代と言われた江戸時代に、税や財政に関する数々の改革が行なわれた。これらの出来事を知ることによって、税について考える参考になるのではとの思いから、今回の企画はスタートした。

今から30年前、沖縄県に青色申告会が結成された。それから3年後に沖縄を訪れた時に、宮古島に「人頭税石」というものがあることを知った。訪れてみると、その石像には多くの悲しい、苦しい歴史が秘められていることを知らされた。その人頭税廃止に立ちあがった中村十作氏が新潟県中頸城郡板倉町(現・上越市板倉町)の出身で、郷土の誇りとあがめられていることも知ることができた。

また、10年程前に福島県の会合に出かけた時に、戒石銘の刷られた額をいただいた。この額は、議員会館や国税庁幹部の部屋にかけられているのを見ることも少くない。

そして昨年広島ブロック大会に出席するため、台風のために前泊した福岡のホテルで、NHK教育テレビの高校生を対象にした「長州藩の改革」と題する番組を見た。歳入の24倍の借金をした長州藩がどのような再建策を導入したのか、翌日の大会で隣の席にいた長門の市長さんからも色々とお聞かせいただいた。

これらの出来事をふまえ、50周年にもご出講いただいた作家の童門冬二先生にその背景にあるものをお教えいただき、そして全国の青色申告会の代表者の方々と、有意義なときを共有してあらためて、「今、税を考える」ひとつのきっかけをつくりたいと願う。



**がんばっています 新潟**  
**感謝の気持ちでいっぱいです**  
**～「7・13 水害」・「10・23 中越地震」へのご支援のお礼～**

青年部レポート特別編 **新潟県 栃尾青色申告会**

平成 16 年 7 月 13 日、梅雨前線が停滞して早朝から集中豪雨が当県を襲い、県のほぼ中央を流れる一級河川の五十嵐川、刈谷田川などの堤防が決壊して、濁流が鉄砲水となって市街地に流れ込みました。県の集計では 15 人が亡くなり、住宅の全半壊が約 5,500 棟、床上床下浸水が 8,500 棟という大惨事となりました。市街地は悪臭が漂い、田園は何日も冠水状態が続くという有様でした。私の家(酒屋)も床上浸水となり、3～4 日、家の泥出し作業を行ったものの、いまだ床下は片付いていません。

水害の復旧工事が本格的に始まろうとした矢先の 10 月 23 日午後 6 時前、中越地方を最大震度 7 の地震が襲いました。「ズ、シーン」という大きな音とともに突き上げる様な大きな縦揺れと横揺れに、瞬間何が起きたのかわかりませんでした。「地震だ!」という声に隣市長岡市にいた私は急いで帰宅しようと車を走らせましたが、栃尾市に通じる道路はいたるところで大きく波うち亀裂が入り、陥没したり崩れ落ちていました。それでもなんとか家に辿り着き、店の中を覗くと棚の酒はほとんどが落ちて割れ、冷蔵庫の商品まで飛び出していました。消防団に所属する私は店の片付けは後回しにして消防本部に直行し、市内の状況把握に深夜まで詰めていました。

朝を迎え市内を巡回してみると、いたる所で田は崩れ落ち、家が倒壊したり傾いていたり、道路と家が 10m 以上もそっくり移動しているところもあり、村部を中心に甚大な被害状況を目にしました。

「7・13 水害」、「10・23 中越地震」の度重なる災害に、全国から大勢のボランティアが新潟県に入り大きな救いの手を差し伸べていただきました。そして全国の青色申告会から心暖まる多くの見舞金と救援物資をお送りいただきました。感謝の気持ちでいっぱいであります。

当栃尾市は、来年 1 月 1 日長岡市と合併になります。栃尾青色申告会青年部は諸事情により、本年 1 月解散しました。結成から 15 年間部長を務めさせていただきました。その間会員、部員に支えられ、全青色青年部の総会にも参加して大勢の方々とお話をさせていただいた事は、私の人生の大きな糧となっています。今後、新市の中で新しい青年部のあり方を、署連・県連そして全青色の指導を仰ぎながら模索し、再スタートが出来ればと考えております。

水害、地震、そして 19 年ぶりの大雪に見舞われた激動の 1 年でした。

本紙をお借りし、全国の皆様に感謝の気持ちを伝えられる機会を与えていただき大変嬉しく思います。

ありがとうございました。また、今後ともご支援・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

新潟県 栃尾青色申告会 荻澤 行 雄

〔編集担当〕

今回は、昨年 7 月の水害及び 10 月の大地震で甚大な被害を受けた新潟県中越地方の栃尾青色申告会より、全国の皆様から様々なご支援をしていただいたことに対する御礼を申し上げたい、とのお申し出があり、このような形で掲載しました。

全国各地の青色申告会から義援金が、また緊急支援物資が届けられました。青色の仲間の輪が大きく広がったことを編集子も感じました。

ご地元の皆様に一日も早く、元の生活を取り戻していただけるよう、今後も皆様のご支援をお願いします。

特長的な活動を活発に行う青年部のご報告をお待ちしています。全青色事務局へご一報ください。

## KEY WORDS

### 国際会計基準

企業の業績を適正に理解できるようにする国際的な統一会計基準。今年度よりEU域内の株式公開企業に適用され、来年度から日本でも適用される。この基準が世界で採用されると、各国の企業間の業績比較をきちんとすることができるようになる。他方、日本独自の会計基準に基づいて処理を行っていた企業にとっては、「連結決算」や「時価会計」など新しい基準を採用するために大きな負担を強いられる。さらに、国際的な株式公開企業でなくても、新しい会計基準をクリアしていないと、取引先からも投資家からも評価されず、経営に支障が出るため、この基準を使った会計処理を採用する企業が多い。

### 市場化テスト

公共サービスの担い手を行政と民間が競争で決める制度。官民競争入札とも呼ばれる。行政の業務を民間企業・団体に開放し、サービスの質の向上やコスト削減を競う。民間の成果が行政側を上回れば、業務委託や民営化を進めていくことになる。今年度は国民年金保険料の徴収など8事業で実施することが決まっており、今月からすでに民間が一部の業務を手掛けている。テスト後は、第三者機関が民間の業績と従来の行政の成果を比較して、最終的な担い手を決めることになっている。政府は、平成18年度からの本格的な導入を目指している。

### 2007年問題

団塊の世代の中でも一番人口が多い1947年(昭和22年)生まれの働き手が60歳の定年退職を迎えることによる、様々な問題。まず、労働人口が大幅に減少し人手不足になると言われており、今後もこの世代に頼らざるを得ない。次に、大量の退職者が出ることにより、退職金や年金受給者の急増などで、会社経営などに悪影響を与えかねない。さらに、国の年金制度などは、少子高齢化も手伝って、現在の制度そのものの存続が危ぶまれている。他方、若年労働者にとっては、雇用機会が増えることになり、その結果として、希望する仕事を選ぶことができるようになると言われている。

### 失敗学

過去に起こった事故や失敗の発生原因を解明し、経済的打撃や人命に関わるような失敗を未然に防ぐ方策を提供する学問。生産活動には、事故や失敗はつきものである。これらの事故や失敗は、小さなものから経済的損失につながるもの、負傷を伴う大きなもの、さらに多数の死傷者を出す大規模なものまである。これらを未然に防ぐには、過去に起こった事故や失敗の発生原因を解明し、体系化して学習することが必要である、との考えから、まずアメリカで学問として認知され、最近日本にも広まり、企業経営者からも注目されている。

## Opinion & Announcement

全青色青年部総会が開催され、TEN-UP ACTION 2005を宣言した。あわせて、TEN-UP ACTION 2004表彰式も行われた(記事参照)。今年は、親会が55周年を迎え、全青色青年部も25周年となる区切りの年でもある。TEN-UP ACTION 2005では、部員増強表彰を受ける会が、今年の3会以上に増えることを望む。よく、会員自体が減少してなかなか部員の増強まで手が回らない、という声をよく聞く。しかし、わずかでも部員が増えている会は、昨年より多くなっている。さらにTEN-UP ACTIONも5年目に入り、この言葉も浸透してきたように思う。今まで表彰を受けた会の方の話では、地道に努力を続けた結果、部員の10%以上の増強につながったというものが多く、今年もTEN-UP ACTION表彰会のレポートをお届けしているので、参考にさせていただきたい。また、過去の資料を見たい会は、全青色までご連絡いただきたい。

皆様もご存知のとおり、今年分の申告から青色申告特別控除制度が大きく変わる。具体的には、正規の簿記で記帳している場合は青色申告特別控除額が65万円に上がり、他方簡易簿記で記帳している場合は青色申告特別控除額が10万円に下がる。さらに、昨年分から消費税の課税最低限が1,000万円に引き下げられ、消費税申告対象者も増えている。昨年の青年部アンケートでは、簡易簿記で記帳されている方がまだ37.5%いる。正しい申告を行うためにも、青年部員には、全員が青色申告特別控除65万円を選択できるよう、記帳水準の向上をはかっていただきたい。会計ソフトを使用すると、簿記の知識が乏しくても簡単に複式簿記で記帳でき、集計も自動的にしてくれる。OAを活用して、複式簿記での記帳を行い、それをきっかけにして記帳水準の向上と合理化をはかっていただきたい。